



発行：青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町1丁目3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

令和8年度もまもなく後半です

近年の日本の夏としてはいくらか過ごしやすかった青森の夏も過ぎ、朝晩は涼しくなってきました。気が付けばあと少しで年度の後半です。協働活動やCSにおいても一層充実した活動となるよう頑張っていきましょう！

【第2回 学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修会】

6月30日、標記研修会を「アピオあおもり」にて開催しました。今回の講座は、青森市子育てサポートセンターのファミリー講座と合同開催であり、学校と保護者が連携して取り組む活動(今回は児童生徒とSNS)についての研修会でした。

講演(子どものネットリスク教育研究会副代表 本間 史祥 先生) 概要

本間先生からは、「子どもたちのネットリスクの真実」と題して、子どもたちのネット利用の現状・なぜこんなにはまるのか・依存や健康被害・誹謗中傷問題・家庭でできることは、というジャンルに分けて、データと実例を示しながらお話をいただきました。印象的なワードとしては、①中学生の2割は何らかの実害を受けている ②ゲームは依存(はまる)するように作られている ③今の子どもたちはつながり過剰症候群である ④中傷問題には悪意のないいじめもある ⑤対話とルール作りの工夫の大切さ ⑥個人・集団・大人のエージェンシー(主体的行動力)が問われている、と同時に子どもたちに問いかけ・共感・複雑さの理解を示してあげること、等が挙げられます。最後に生成AI時代に必要なのは、「正しい言語(国語)の力を持たないと生成AIは使いこなせない。」というのが印象的でした。



ワークショップ概要

後半のワークショップでは、講演を聴いてからの思いや各人の事例や取組等を情報交換し、最後に自分ができることを決め、実践することを表明して終了しました。多かった実践や決意のキーワードを紹介します。



- ① **ルール作り** → 親子の対話と納得のルール、子どもの自己決定が必要、ルールを守るための手立ての工夫、大人のルールやモラルも必要、子どもに見合った使用時間、定期的な見直しが必要
- ② **広報(情報発信)** → 保護者の責任を知ってもらう、参観日全体会で周知する、児童生徒・家庭に直接お便りを配布、学校の職員会議や全校集会で話題提供する
- ③ **研修の場** → SNSの現状把握、スマホのことを知る、スマホ〇〇教室の開催、保護者・教員・子ども向けの研修会、ルールの作り方や守らせ方、親子で参加するワークショップ型研修
- ④ **心の教育** → 思いやり等心の育成、道徳教育の充実、アンガーマネジメント、アサーショントレーニング、親子の触れ合いや対話の時間確保、etc・・・

◆ 浜田小学校の地域学校協働活動にせまる ! ◆

8月25日、市内有数の活動数を誇る浜田小学校の地域学校協働活動について、浜田小学校津川校長先生・唐牛推進員さんにインタビューをし、お話をお伺いしました。



★**推進員として良かったこと** 感謝の言葉をたくさんもらえたこと。ボランティアさんや先生方から、ありがとう、楽しかった、また来ます、などの感謝の言葉は何よりも自分のモチベーションアップになります。

★**人集め・仲間づくり** PTA出身でもあり、現PTAとのつながりを意識して絶やさないようにしています。それを年々積み重ねると、オーバーPTA(PTA経験者)の

1年生の給食ボランティア 仲間(ボランティア応援隊)も増えてきます。関係学年以外の学年にも声掛けできるようになります。また、PTA室をちょっと借りて仕事をしているので、お互い仲良くなれますよ。今後は保護者だけでなく、地域の方へボランティアが広がっていくようにしたいのが課題です。

★**PTAとの関係** 現PTAと一緒にPTA活動もしています(もうPTAは卒業したのですが・・)。協働活動のみならず、PTAも元気(なんと現PTAに読み聞かせ委員会がある!)なので、ボランティアが足りない時、お互い補完ができています。頼ったり、頼られたりという、持ちつ持たれつの感じです。

★**学校の体制として** 必要十分な連絡の取り合いによる信頼関係構築が一番。また、全校朝会や様々な会議で推進員さん・ボランティアさんを紹介して、顔と名前を覚えてもらうようにしています。年度末の入学説明会・年度初めの顔合わせ等が有効です。推進員さんの正確ですばやい働きによって、先生方も子どもたちも安心して活動できると感謝しています。

★**今後の夢** (唐牛推進員) 地域の方々と子どもたちが一緒に過ごす時間や空間を作りたい。遊びやバザーのようなイベント・体験の場を設けて、地域の様々な人と触れ合うチャンスを作りたい。(津川校長) 地域の人・団体と教育的活動でつながりを作りたい(地区懇談会の活用等)。地域とは防災で、また異校種では、例えば近隣の高校とスポーツや吹奏楽などで、連携・交流ができればいいですね。

★**悩み** やはり後継者探しが大変ですね。仲間はいるもののなかなか後を継いでくれる人を探すのは大変ですね。また、地域へボランティアを広げたいものの、その地域の方々も人手不足で減少傾向となってきました。ボランティアの高齢化や子ども会の消滅、町内会の担い手不足などが心配です。



唐牛推進員と津川校長

★**CS開始と今後の浜田小** (唐牛推進員) CSスタートにあたって特に心配はないですが、他の推進員さんと交流が持てるとボランティア活動も広がるのではないかと思います。また、ボランティア活動を増やしていくためには、学校側と推進員とが思っていることをお互い共有し、今何が必要かを確認し合うことが、秘訣の一つかなと思います。(津川校長) CS開始にあたって、やるからには浜田地区の強みを生かした活動ができればいいと思います。例えば充実している商業施設や公共施設を活用し、地域と防災やキャリア教育等の取組ができるようになればいいと思います。創立50年を超えましたが、この間、子どもたちのために動いてくれる、つながってくれる保護者が多くいるという伝統が築かれてきたと感じています。この伝統を守り続けて、さらにCSという新しいスタートに弾みをつけていきたいです。

《浜田小学校 津川校長先生・唐牛推進員さん、お忙しい中ご協力本当にありがとうございました。》

《 学校訪問への協力ありがとうございました 》

今年度も各校の皆様のご協力のもと、学校訪問が無事に終わりました。今年は「手引き」のポイントの説明を訪問時に加え、事業の周知・理解が深まるようにしました。また、活動内容や推進員さんに関わるお話を数多くいただき、参考になりました。次号で、訪問で得た情報を整理してお伝えしようと思います。



編集後記

今年もねぶた祭りが盛大に行われましたが、改めて青森市民のねぶたにかけける思いはすごい!と感じています。CSにおいても地域ねぶたの復活、祭り開催の意欲は素晴らしく、地域づくりの原動力となり得る力強さを感じます。あの**じゃわめぐ**感じがたまりません!